基本計画（案）

※本資料は内容確認用の文章案です。計画書（冊子）では、写真やイラスト等を用いてレイアウト・デザインを整える予定です。

基本目標４　まちづくり分野４-１　学校教育

学校教育課

学校教育の“いま”

地域と連携した学校づくり　①

学校運営協議会設置校数　R6:20校、R7:20校、R8:20校

全小中学校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールの取組を進めています。今後は、地域の人的・物的資源を活用しながら、学校と地域が一体となった特色ある学習活動をさらに充実させる必要があります。

確かな学力の育成　②

NRT偏差値平均

［小6］R7:国語48.4、算数50.2、英語48.7　［中3］R7:国語47.6、数学46.2、英語45.6

1人1台端末をはじめとするデジタル学習基盤の整備が進み、それを生かした授業改善が進んでいます。一方で、基礎的・基本的な内容の定着等に課題が見られることから、家庭と連携しながら、確かな学力の育成に取り組む必要があります。

不登校・いじめへの対応　③

不登校発生率　［小学校］R4:0.84% → R7:1.86%　［中学校］R4:7.04% → R7:7.70%

不登校やいじめへの対応に取り組んでいますが、不登校発生率は依然として課題となっています。子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、居場所づくりや絆づくりを進めるとともに、多様な立場を理解し認め合う人権教育を推進する必要があります。

教職員の多忙化解消　③

年間360時間以内の教職員割合

［小学校］R3:42.9% → R7:50.4%［中学校］R3:33.1% → R7:59.8%

時間外在校等時間は改善傾向にあるものの、依然として長時間勤務の教職員がいます。生徒指導上の課題が多様化・複雑化する中、教員が児童生徒とじっくり向き合える時間を確保するため、業務量の適正化と働きやすい職場環境づくりを進める必要があります。

誰もが安心して学べる環境づくり　④

支援が必要な児童・生徒の割合　R5:9.9% → R7:10.5%

特別な支援を要する子どもの割合が増加していることから、一人一人の状況に応じた支援が求められています。介助員等の適正配置や関係機関との連携により、誰もが安心して学べる環境づくりを進める必要があります。

学校統合と教育環境の整備　⑤

小・中学校の学校統合を実施

児童生徒数の減少により学校の小規模化が進む中、学校統合に取り組んでいます。今後も、子どもたちにとって望ましい学習環境を確保するため、学校の適正規模や施設の維持・改修について、地域を交えて検討する必要があります。

※各項目の丸数字（①、②…）は、対応する「チャレンジ１、２…」を示しています。

将来に向けた チャレンジ

チャレンジ１　地域と連携・協働した教育の推進

- 地域との連携・協働により、児童生徒の学習活動の更なる充実を図ります。
- 地域の人的・物的資源を活用した体験活動や地域課題について考える学習活動を通して、関係機関との連携を深めながら、郷土愛を育む特色ある学習の充実に努めます。
- 防犯、交通安全、防災教室の実施など、地域や関係機関と連携した子どもたちの安全な環境づくりを進めます。
- 架け橋プログラムの実践による幼保小の連携や小中学校間における情報共有等、緊密な連携に努め、地域の教育機関を含めた学びの連続性を意識した教育を推進します。
- 自らの生き方を考え、進路や未来を切り拓くことのできる人材を育成するため、アントレプレナーシップ教育の視点を踏まえた地域と連携したキャリア教育を推進します。

チャレンジ２　学ぶ意欲と確かな学力の育成

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を進め、子どもたちの資質・能力の育成を図ります。
- DXの進展を見据えた教育を行うため、デジタル学習基盤等を整備するとともに、多角的な視点に立った活用を促します。
- グローバル社会に対応した外国語教育や環境整備を推進します。
- 家庭学習をはじめとする学習習慣の確立を図ります。

チャレンジ３　多様性を尊重する豊かな心と健やかな体の育成

- 新たな不登校を生まない集団づくりのため、居場所づくり・絆づくりの取組を推進します。
- 教育支援センターと各校の連携を強化し、不登校傾向の子どもに寄り添った環境づくりを行います。
- 多様な立場を理解し認め合う学習を進め、差別やいじめのない共生社会に向けた人権教育を推進します。
- 体力、運動能力、運動習慣を把握、分析し、体力向上を図るとともに、家庭と連携した食育を推進します。
- 児童生徒と向き合える時間を確保するため「村上市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」を踏まえ、教職員の年間時間外在校等時間の削減に努めます。

チャレンジ４　誰一人取り残されない安心して学べる環境づくりの推進

- 特別な支援を要する子どもの「個別の教育支援計画」及び「個別の授業計画」を作成し、関係機関等と連携した教育活動を進めるとともに、時代のニーズに合った子どもへの支援に努めます。
- 子どもの個性を活かし、「個」に応じた学習を進めるため、介助員等の適正な配置に努めます。
- 就学援助事業や奨学金制度を継続し、誰もが等しく学び合うことのできる環境づくりを推進します。

チャレンジ５　持続可能で望ましい教育環境の整備

- 児童生徒にとってより望ましい学習環境を目指し、本市の学校の適正規模や施設の維持・改修を検討するため、教育環境の在り方について地域を交えて協議を進めます。
- 統合により、スクールバス等による通学時間が増えることが見込まれることから、負担を軽減するため効率的な運行を図ります。

関連する個別計画

・村上市教育基本計画
・村上市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画

令和13年度に 目指す姿

子どもたちを育む学校教育の充実したまち

- 未来を担う子どもたちの学力の育成と健やかな体づくりに向け、少子化や多様化する教育ニーズに対応した質の高い教育を推進します。
- 就学援助や特別支援教育の充実のほか、望ましい教育環境の整備や通学時の安全確保など、誰もが安心して学べる環境づくりを推進します。

↓ ※この姿が実現すると

市民の実感

- 学校と地域が協力し、子どもたちが地域のことを学びながら成長していると感じる
- 一人一人の状況に応じた学びや支援が受けられ、安心して学校生活を送れるようになる
- ICTも活用しながら、子どもたちの学ぶ意欲や確かな学力が高まる
- 不登校やいじめについて相談できる場所があり、子どもに寄り添った支援を受けられるようになる
- 教員が子どもと向き合う時間が増え、学校教育がより充実したと感じる

将来の 目標

		現状値（R7）	目標値（R13）
目標１	NRT偏差値平均 小6	国語48.4 算数50.2 英語48.7	国語51.0 算数51.0 英語51.0
目標２	NRT偏差値平均 中3	国語47.6 数学46.2 英語45.6	国語48.0 数学48.0 英語48.0
目標３	不登校児童・生徒の割合	（小学校）1.86% （中学校）7.70%	（小学校）1.80% （中学校）6.70%
目標４	年間時間外在校等時間が360時間以内の教職員の割合	（小学校）50.4% （中学校）59.8%	（小学校）100% （中学校）100%

将来に向けて みんなで できること

整える たとえば…
家庭で子どもの生活習慣や家庭学習の時間を整え、毎日の学びを見守る

参加する たとえば…
学校行事や教育活動に、地域の一員として参加する

伝える たとえば…
地域の歴史・文化・仕事など、自分の知識や経験を、学校での学習や体験活動で子どもたちに伝える

認め合う たとえば…
子どもの個性や多様な背景を尊重し、いじめや差別を見過ごさない環境づくりに協力する

支える たとえば…
学校や地域クラブの活動を理解し、子どもが安全に参加できるよう、送迎、運営協力など、できる方法で子どもの活動を支える

基本計画（案）

※本資料は内容確認用の文章案です。計画書（冊子）では、写真やイラスト等を用いてレイアウト・デザインを整える予定です。

基本目標４　まちづくり分野４-２　生涯学習

生涯学習課

生涯学習の“いま”

地域の学びを支える担い手　①

放課後子ども教室支援者数　R5:109名＋1団体 → R7:103名

読み聞かせボランティア参加団体数　R5:5団体 → R7:5団体

公民館活動や子どもたちの学びを支える地域人材により、学びの支援が継続されています。一方で、支援者の高齢化や担い手不足が懸念されることから、各種団体と連携しながら、地域の学びを支える人材の確保・育成に取り組む必要があります。

学びの成果を生かす機会　②

発表の場の提供数　R5:55件 → R7:50件　社会教育関係団体登録数　R5:116団体 → R7:118団体

社会教育関係団体の活動は維持されていますが、発表の場はやや減少しています。学びの成果を発揮する機会を確保し、世代間交流や文化の継承につなげるため、学習成果を地域活動やまちづくりに生かす仕組みづくりが必要です。

ライフステージに応じた学び　③

講座等動画アーカイブ数　R5:5本 → R7:12本

情報化社会の進展やライフスタイルの変化により、世代に応じた学習機会の提供が求められています。講座等の動画アーカイブなど多様なデジタル環境を活用しながら、誰もがいつでもどこでも学べる環境づくりを進め、公民館活動の活性化を図る必要があります。

文化芸術活動への関心低下　④

市展出品者数　R5:83人 → R7:81人　市展観覧者数　R5:1,640人 → R7:1,476人

ライフスタイルの変化や文化芸術に触れる機会の減少により、市展の出品者数や観覧者数が減少しています。文化芸術への関心を高めるとともに、鑑賞機会や発表機会を充実させ、文化芸術活動の担い手育成を支援する必要があります。

図書館資料の充実　⑤

蔵書冊数　R5:223,018冊 → R7:226,078冊　貸出冊数　R5:149,663冊 → R7:141,429冊

図書館と地区図書室、移動図書館のネットワークにより、利用者ニーズに応じた資料提供を進めています。一方で、貸出冊数は減少していることから、多様な資料の充実や情報発信等により、市民の学びを支える図書館サービスを強化する必要があります。

図書館利用者の減少　⑤

貸出者数　R5:44,198人 → R7:38,758人

ライフスタイルの変化やメディアの発達により、図書館の貸出者数は減少しています。幼少期からの読書活動を支援するとともに、移動図書館の活用や電子書籍の導入の検討を進め、誰もが読書に親しめる環境を整備する必要があります。

※各項目の丸数字（①、②…）は、対応する「チャレンジ 1、2…」を示しています。

将来に向けた チャレンジ

チャレンジ１　市民の主体的・協働的な学びの推進

- 各種団体と連携した教育支援を進めるほか、各種研修会等を通して家庭教育支援者の養成に努めます。
- 「放課後子ども教室」など、子どもたちを地域で育むための支援に取り組みます。
- 地域が主体となって推進する青少年健全育成活動の支援に努めます。

チャレンジ２　「むすび、つながる」公民館活動の充実

- 学習の成果を発揮する機会の提供に努めます。
- 各世代の交流やつながりが深まる学びの循環を図ります。
- 幼児から高齢者まで気軽に集える学びの拠点となる地区公民館施設の維持管理に努め、子どもの頃から各世代を通じて親しみ、継続的に利用される公民館づくりを推進します。
- 生涯学習活動の中心となる社会教育関係団体の活動を支援し登録団体の増加に努めます。
- 地域を活性化していく人材育成や次代を担う子どもたちの豊かな心を育むための環境を提供していく人材の育成のため、郷土を愛し、守るべき豊かな自然と伝統文化を次代に継承できるように地域の文化、歴史を学ぶ地域学習講座の充実に努めます。
- 市民が地域の歴史や文化を地域の人々とともに学び、その学びの成果を地域の魅力として外部に発信するなど、地域への新たな関わり方を模索し、地域からまちづくりへ参加するきっかけとなる地域学習講座の充実に努めます。

チャレンジ３　ライフステージに応じた学習機会の提供

- ライフステージに応じた多様な学習機会を提供し、「社会教育×子育て」、「社会教育×健康」など、様々な分野と横断的連携を図ることで、より身近で課題解決に向けた講座の充実に努めます。
- 各種講座の提供に際し、多様なデジタル環境の活用を図り、どこでも学べる環境づくりに努めます。
- 講座等の開催日時を検証・検討し、ニーズに即した実施に努めます。
- 各少年団（村上市健民少年団、緑の少年団）の活動・運営への支援に努めます。

チャレンジ４　文化芸術活動支援の推進

- 市美術展覧会（市展）や音楽会の開催など、魅力ある文化芸術の鑑賞機会を創出し、文化芸術作品創作活動の意欲向上を図ります。市展同時開催のPTA児童絵画展や文化展において学校との連携を強化して人材の育成に努めます。
- 美術協会と連携して絵画教室等を開催することにより、文化芸術作品創作者の育成を支援するとともに、作品発表の場を創出します。

チャレンジ５　学びを高める読書活動の推進

- 地域の課題解決や学びを支える情報を市民に等しく提供できるよう、多様な図書館の蔵書や視聴覚教材を確保し、情報を発信します。
- 図書館を利用する機会の創出や提供サービスの充実に努めるとともに、学校や地域、ボランティアなどの関係団体と連携した読書活動の支援を通じて、市民が図書に親しみやすい環境づくりを推進します。
- 「村上市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動の重要性に対する市民の意識啓発を図るとともに、学校や子育て支援施設と連携して、子どもたちが読み聞かせなどをとおして幼少期から図書に触れ、自発的に読書に親しむ機会を提供できる環境整備を推進します。

関連する個別計画

・村上市教育基本計画　　・村上市子ども読書活動推進計画

令和13年度に 目指す姿

市民が気軽に集い、生涯を通じて多様な学びと成果を活かせるまち

- 学習の場・機会の充実や情報提供に努め、時代とともに変化する多様な価値観やライフステージに応じた学習環境づくりを推進します。
- 学習で得た知識や技術を発揮・活用できる取組や地域づくりを進めます。
- 誰もが気軽に文化芸術に触れ合える環境整備に努めます。
- 学ぶ意欲を持つすべての市民に情報が提供できるよう、多様な図書館資料の確保や環境整備を推進します。

↓ ※この姿が実現すると

市民の実感

- 自分に合う学びを見つけやすくなる
- 公民館などが世代を超えた交流の場になる
- 学びを地域活動に生かせるようになる
- 身近な場所で文化芸術に触れ、鑑賞や創作を楽しむ機会が増える
- どこに住んでいても読書を楽しめるようになる
- 学びを通じた新しいつながりが増える

将来の 目標

		現状値（R7）	目標値（R13）
目標１	講座等動画アーカイブ数（公開累計数）	12本／累計	29本／累計
目標２	社会教育関係団体登録数	118団体	130団体
目標３	市美術展覧会入館者数	1,476人／回	1,500人／回
目標４	市民1人当たりの図書貸出点数（平均）	2.7冊	3.0冊

将来に向けて みんなで できること

参加する たとえば…
公民館の講座や地域学習に参加し、学んだ知識や技術を家庭、仕事、地域活動で生かす

支える たとえば…
自身の得意分野や経験を生かして子どもの学びや地域活動を支える

交流する たとえば…
世代を超えた交流や社会教育関係団体の活動に参加する

楽しむ たとえば…
市展、音楽会、文化講座などに足を運び、文化芸術の鑑賞や創作を楽しむ

読む たとえば…
図書館や地区図書室、移動図書館を活用し、家族で読書に親しむ

共有する たとえば…
講座や活動の情報を家族、友人、近所の人に伝え、参加のきっかけを広げる

基本計画（案）

※本資料は内容確認用の文章案です。計画書（冊子）では、写真やイラスト等を用いてレイアウト・デザインを整える予定です。

基本目標４　まちづくり分野４-３　文化財

生涯学習課

文化財の“いま”

文化財保存団体の担い手減少　①

平林城跡保存会会員数　R5:81人 → R7:52人

文化財所有者や保存団体の高齢化、構成員の減少が進んでいます。文化財を適切に保存・活用していくため、所有者や保存団体と課題を共有し、保存・修理・維持管理等への支援を継続する必要があります。

無形民俗文化財の継承　②

村上祭の屋台曳き廻し参加者数　R6:1,810人 → R7:1,780人

無形民俗文化財の後継者が減少しており、地域の祭りや伝統行事の継承が課題となっています。関係団体と地域課題を共有し、外部からの参加者を増やす取組や情報発信を通じて、無形民俗文化財の保存・活用を進める必要があります。

歴史的建造物の保存　③

歴史的建造物取り壊し棟数　(H27 → R4)10棟

歴史的建造物の空き家化や老朽化により、取り壊される事例が生じています。文化財的価値を有する町並みを次世代へ継承するため、伝統的建造物群の保存や空き家対策との連携により、歴史的建造物が残る町並みの保存を進める必要があります。

史跡整備と理解促進　④

整備完了予定　平林城跡:R11 村上城跡黒門:R15 山元遺跡:R16

史跡整備には長期間を要しており、来訪者の史跡理解が十分に進んでいない状況です。整備計画に基づき事業を進めるとともに、現地説明会や講演会、情報発信を通じて、市民や来訪者の理解と郷土への誇りを高める必要があります。

※各項目の丸数字（①、②…）は、対応する「チャレンジ 1、2…」を示しています。

将来に向けた チャレンジ

チャレンジ１ 文化財の保存・活用の推進

- 「村上市文化財保存活用地域計画」に基づいて有形・無形・民俗等文化財全般を適切に保存・活用するための事業を計画的に実施し、活用については観光部局との連携を強化します。また、村上市文化財保存活用地域計画協議会において事業の進捗管理を行います。
- 指定文化財の所有者・保存団体や関係機関と課題を共有し解決策を探ります。また、保存・修理・維持管理等に対しては補助金等を交付し、文化財所有者及び保存団体への支援を行います。

チャレンジ２ 無形民俗文化財の保存・活用の推進

- ユネスコ無形文化遺産「村上祭の屋台行事」、北前船日本遺産構成文化財「瀬波祭」「岩船祭」の安全な屋台運行及び外部からの参加者を増やす取組を支援します。
- 無形民俗文化財における地域課題を関係団体と共有することで、無形民俗文化財の保存と継承に努めます。
- SNSによる情報発信、各種講演会の開催等で文化財に触れる・学ぶ機会を充実することにより、文化財に対する関心を向上させ、保存への理解を促します。

チャレンジ３ 伝統的建造物群の保存・活用の推進

- 伝統的建造物群保存対策調査で文化財的価値が高いとされた「庄内町、小町及び大町地内の出羽街道沿い」において、重要伝統的建造物群保存地区選定などにより古い町並みを残さなければならないという住民の機運を醸成する取組を実施するとともに、空き家対策事業と連携することにより、歴史的建造物が残る町並みの保存を推進します。

チャレンジ４ 史跡の保存・活用の推進

- 整備計画に基づいて事業を進め、各史跡の整備進捗状況を公表します。
- 保存活用計画に基づき史跡を適切に保存するとともに、現地説明会や講演会の開催や史跡の情報を発信することにより市民の史跡への理解と郷土の誇りの醸成を図ります。

関連する個別計画

- 村上市教育基本計画
- 村上市文化財保存活用地域計画
- 史跡平林城跡保存管理計画
- 史跡平林城駅整備基本計画
- 史跡村上城跡保存活用計画
- 史跡村上城跡整備基本計画
- 史跡山元遺跡保存活用計画
- 史跡山元遺跡整備基本計画

令和13年度に 目指す姿

歴史や文化財の魅力あふれるまち

● 市民が地元の歴史・文化財に誇りが持てる、また、市外から村上に来てみたいと思わせる歴史・文化財の魅力の磨き上げと発信を推進します。

↓ ※この姿が実現すると

市民の実感

- 地域の祭りや伝統行事に若い世代や地域外の人も参加し、受け継がれていると感じる
- 歴史的な町並みや文化財が守られ、地域の魅力として大切にされる
- 地域の歴史や史跡を学ぶ機会が増え、村上への誇りが深まる
- 村上の文化や歴史を目当てに訪れる人が増え、地域に活気が生まれる

将来の 目標

		現状値（R7）	目標値（R13）
目標１	講座・講演会等の開催数	12回／年	15回／年
目標２	講座・講演会等の参加者数	426人	600人

将来に向けて みんなで できること

参加する たとえば…
地域の祭りや伝統行事に参加し、できる役割で次世代への継承に協力する

学ぶ たとえば…
地域の文化財や歴史的建造物について、見学会や講演会、案内板などを通じて学び、大切にする

支える たとえば…
文化財保存団体や文化芸術団体の活動に参加・協力し、会員加入やボランティアなど、できる方法で支える

発信する たとえば…
地域の歴史・文化の魅力をSNSや口コミで発信する

基本計画（案）

）※本資料は内容確認用の文章案です。計画書冊子では、写真やイラスト等を用いてレイアウト・デザインを整える予定です。

基本目標４　まちづくり分野４-４　スポーツ

生涯学習課

スポーツの“いま”

スポーツ実施の二極化と地域スポーツ活動の基盤　①

スポーツ施設・学校体育施設利用者数　R6:390,898人 → R7:364,980人

総合型地域スポーツクラブ事業参加者数　R6:53,256人 → R7:49,001人

ライフスタイルの多様化や時間的・経済的制約により、日常的に運動・スポーツに取り組む人と、全く実施しない人との二極化が進んでいます。誰もが継続的にスポーツに親しめるよう、ライフステージに応じた機会の創出と環境づくりを進める必要があります。

部活動の地域展開と指導体制　①

認定地域クラブ団体数　R8:26団体

学校部活動の地域展開に伴い、認定地域クラブ活動が開始され、総合型地域スポーツクラブが中心的な役割を担っています。子どもたちが安心して多様なスポーツに取り組めるよう、継続的な指導体制の構築と指導者の確保が必要です。

競技スポーツとスケートパーク活用　②

初心者体験教室・ミドルスクール参加者数　R6:2,847人 → R7:2,546人

村上市スケートパークでは、トップアスリートの練習拠点として、ジュニア選手の育成・強化に取り組んでいます。全天候型屋内施設の強みを生かし、大会・合宿誘致やスポーツツーリズムの推進と一体的に、質の高い育成環境を維持・強化する必要があります。

スポーツ施設の老朽化　③

整備後30年以上の市内スポーツ施設の割合　85%

市民の健康増進や地域コミュニティの活性化を支えてきた社会体育施設の多くで老朽化が進んでいます。すべての施設を維持することは困難であることから、利用実態や地域ニーズを踏まえ、持続可能な施設体系への転換を進める必要があります。

※各項目の丸数字（①、②…）は、対応する「チャレンジ 1、2…」を示しています。

将来に向けた チャレンジ

チャレンジ１　生涯スポーツの推進

- 保健医療課、介護高齢課、総合型地域スポーツクラブ等の関係団体と連携しウォーキングや軽運動など日常生活に取り入れやすいスポーツ機会の充実を図り、生涯にわたる運動習慣の定着による健康づくりを推進します。
- 幼児期から高齢期まで、ライフステージに応じた多様なスポーツ機会の提供に努めるほか、障がいがある人が参加しやすいプログラムや環境づくりを推進します。
- 認定地域クラブ活動については、総合型地域スポーツクラブを中心とした持続可能な運営体制の構築と多様なスポーツ活動ができる環境の確保を図ります。

チャレンジ２　競技スポーツの推進

- 指導者の資質向上を図るための養成・研修機会の充実に取り組むとともに、継続的に活動できる環境整備を推進します。
- 村上市スケートパークでは、全てのカテゴリの選手を対象とした質の高い育成環境の提供に努めるとともに、大会・合宿を誘致しスポーツツーリズムを推進します。
- 市民が高度なスポーツに触れる機会を確保しながら、将来を担うアスリートの育成・支援を推進します。

チャレンジ３　スポーツ環境の整備・充実

- 利用実態に応じた施設の適正配置を図るとともに、「スポーツ施設整備計画」に基づき、安全性と利便性の向上に向けた計画的な修繕・更新を推進します。
- 総合的なスポーツ振興を推進するため、関係団体の連携強化を図るとともに、持続可能なスポーツ推進体制の整備に努めます。
- 自然環境などの地域資源を活かし、既存施設に依存しない多様なスポーツ活動の場の創出と充実を図ります。

関連する個別計画

・村上市教育基本計画
・村上市スポーツ施設整備計画

令和13年度に 目指す姿

**誰もがスポーツを楽しみ、心身ともに健康で、
いきいきと輝く生涯スポーツのまち**

- 市民一人ひとりが生涯にわたりスポーツや運動に親しみ、健康でいきいきと暮らせる環境、機会の創出を図り、スポーツ人口の増加と実施率の向上に努めます。
- 競技スポーツの振興を図るため、指導者の確保及び資質向上を推進するとともに各種大会の誘致・開催等に取り組みます。
- 既存スポーツ施設の計画的な長寿命化と、地域ニーズに応じた効率的な配置による持続可能な施設環境の形成に努めます。

↓ ※この姿が実現すると

市民の実感

- 身近な場所で、自分の体力や生活に合った運動を続けやすくなる
- 子どもたちが地域クラブで多様なスポーツを安心して楽しめるようになる
- 年齢や障がいの有無にかかわらず、一緒にスポーツを楽しむ機会が増える
- 大会や合宿、トップアスリートに触れる機会が増え、地域に活気と誇りが生まれる
- スポーツ施設が安全で利用しやすく、安心して活動できると感じる

将来の 目標

		現状値R7	目標値R13
目標１	スポーツ施設・学校体育施設利用者数	364,980人	372,000人
目標２	各種スポーツ団体が実施するスポーツ事業参加者数	100,407人	100,000人
目標３	全国大会の出場者数	104人	100人

将来に向けて みんなで できること

続ける たとえば…
ウォーキングや軽運動など、自分の体力や生活に合った運動を日常生活に取り入れる

参加する たとえば…
スポーツ教室や地域クラブ、大会などに参加し、選手や活動を応援する

支える たとえば…
指導や運営など、得意なことを生かしてできる役割を担い、地域スポーツの運営を支える

認め合う たとえば…
年齢や障がいの有無、運動経験の違いを尊重し、誰もがスポーツを楽しめる環境づくりに協力する

守る たとえば…
スポーツ施設の利用ルールや予約時間を守り、器具や設備を安全に大切に使う